

S-CNC NEWS LETTER Vol. 30

Seto Inland Sea Carbon-Neutral Research Center

2026.8



センターの動き

2026年7月25日にサテライトキャンパスひろしまにおいて広島大学・高大連携公開講座「大気中のCO₂は増えているのか？—最先端の観測からわかる地球上の炭素循環—」をCNセンター町田が講師となって開講しました。

関連の内外イベント

広島大学・高大連携公開講座は高校生への広島大学の広報及びキャリア開発、一般市民への教養・知識向上を目的として毎年開催されています。CNセンターからはこれまで宮島実験所の坪田准教授が「世界遺産宮島の植物と自然」の講義を継続して開講していますが、今年度は地球温暖化の原因となっている大気中の温室効果ガスについて高校生や市民の皆さまに正しく理解していただくために標記の講座を開講しました。今回は5月より募集を開始したところ、高校生14名、一般50名以上の応募があり、一般は数名の方にお断りせねばならないほどの関心を持っていただきました。サテライトキャンパスひろしまには大講義室501と502を通して使わせていただき、余裕を持って講義を行うことができました。当日は13時の1コマ目の開始から17時30分の4コマ目の終了まで、参加者に熱心に受講していただきました。10代の高校生から私よりシニア世代の方々まで目を輝かせながら聞いていただいたことが印象的でした。休憩時間や講義終了後には質問に来ていただく方もおり、高校生の一人からの「大学で研究するにはどのような進路を選ぶのが良いか」との将来に関する相談についてもわずかながら助言することができました。地球温暖化問題に対応するためのカーボンニュートラル社会の実現は人類が取り組むべき喫緊の課題であるにも関わらず、ひとりの温暖化懐疑論に代表される不確かな情報の流通により、「何を信じてよいのか」が不安な方も少なくありません。このような機会を通じて「正しい科学」を地元の皆さまに伝えていくことも、広島大学の重要な役目であるとあらためて感じました。



文責:町田 敏暢

循環型社会の実現に向けた環境修復技術の創出

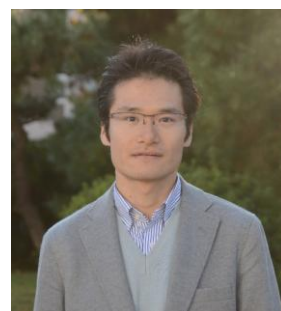
浅岡 聡 准教授

ブルーイノベーション部門

広島大学 大学院統合生命科学研究科 生物資源科学プログラム

研究分野:環境分析化学、水圏環境化学

研究キーワード:資源循環、水環境

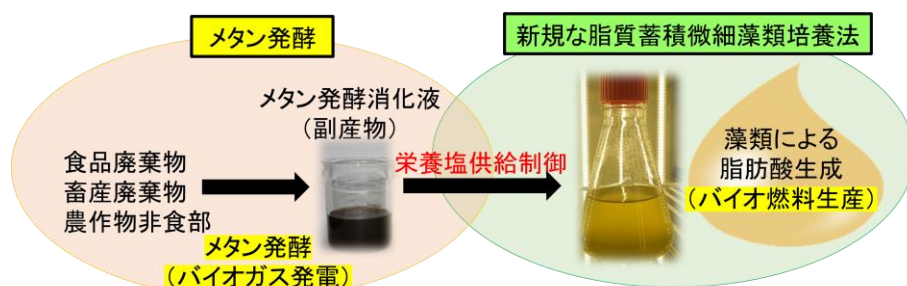


研究概要

未利用バイオマスの有効利用、産業系副産物のアップサイクル、水環境の修復を中心に資源循環、再生可能エネルギー、生態系保全を統合した環境修復技術の創出を通じて、持続可能な社会への貢献を目指しています。

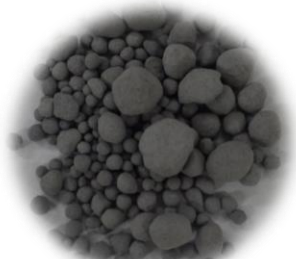
(1)メタン発酵消化液を利活用した脂質蓄積微細藻類の培養法の開発

食品廃棄物や畜産廃棄物を利用したバイオガス発電で副生するメタン発酵消化液を活用した脂質蓄積微細藻類の培養技術を開発し、未利用バイオマスの有効活用とエネルギー生産の両立に取り組んでいます。



(2)リサイクル材料を用いた水環境修復材料の開発

石炭火力発電所の副産物である石炭灰を有効活用した石炭灰造粒物を用いた底質改善技術の開発に関する研究を行っています。石炭灰造粒物は底泥中の硫化物イオンやリン酸を吸着することで閉鎖性水域の生態系の回復に寄与します。



石炭灰造粒物の写真

研究相談、共同研究など大歓迎です

〒739-0046 広島県東広島市鏡山1丁目4-4

センターホームページ: <https://s-cnc.hiroshima-u.ac.jp>

E-mail: seto-carbonneutral@hiroshima-u.ac.jp

[編集・発行]

広島大学 瀬戸内CN国際共同研究センター